

## 歯科保健分野における他健診と乳幼児健診との連携に関する検討

研究分担者 朝田 芳信 （鶴見大学大学小児歯科学講座）

研究分担者 船山 ひろみ （鶴見大学大学小児歯科学講座）

### 研究要旨

乳幼児歯科健診及び相談事業に関連した保健指導とその評価等について、他健診、特に学校歯科健診、妊婦歯科健診及び職域歯科健診との情報提供や連携の実施状況と問題点の抽出を目的に、1,741市町村に対して質問紙調査を行った。629市町村から回答があり、回収率は36.1%であった。乳幼児歯科健診との連携に関する問いでは、学校・妊婦・職域歯科健診いずれにおいても「連携がとれていない」が最も多かった。「乳幼児歯科健診と学校・妊婦歯科健診との間に連携が必要だと思うか」の問いに関しては、「必要」と回答した市町村が多く、連携が必要と思っているものの進んでいない実情が示唆された。

### A. 研究目的

わが国の歯科健康診査（以下、歯科健診）の制度は、妊婦歯科健診、乳幼児歯科健診、学校歯科健診、そして職域歯科健診と一生涯にわたるものであるが、乳幼児歯科健診従事者や市町村担当者と他歯科健診との円滑な連携が行われているとは言えない状況にある。各歯科健診制度は、実施主体が異なり独自に実施されていることが多く、一部の地域で、市町村の乳幼児歯科健診従事者が学校で歯科保健教育に関わる等の連携例もあるが、これまで全国規模での実態は不明であった。

他健診と連結すべきデータ項目や情報共有のあり方に関しては、歯科保健分野でも個人情報に配慮しつつ、関係機関で適切な健康情報を引き継ぐ必要があり、個人の健康情報を一元管理するなど情報連携の標準化が求められる。しかし、乳幼児歯科健診と他歯科健診では判定区分が異なることが、データの連結・情報共有にとって大きな問題となっている。また、情報共有の方法も様々であり、それぞれ目的や意義は異

なる。

本研究班では、乳幼児歯科健診及び相談事業に関連した保健指導とその評価等について、他健診、特に学校歯科健診、妊婦歯科健診及び職域歯科健診との情報提供や連携の実施状況と問題点の抽出を目的に、1,741市町村に対して質問紙調査を行った。

### B. 研究方法

2019年11月～12月に、全国の市町村1,741箇所（特別区を含む）を対象とした質問紙調査（自記式質問紙の郵送、メールまたはFAXにて回答）を行い、乳幼児歯科健診及び相談事業に関連した保健指導とその評価等について、他健診との情報提供や連携の実施状況と問題点の抽出を行った。なお、本調査は、あいち小児保健医療総合センター倫理委員会の承認のもとに実施した（承認番号2019011）。

### C. 研究結果

629市町村から回答があり、回収率は36.1%

であった。回答者の職種は保健師が 69.3%と最も多く、次いで、歯科衛生士 22.7%、管理栄養士・栄養士が 3.2%であり、歯科医師は 0.3%とわずかであった。複数の職種を選択した回答が 2.5%あったが、ほとんどが保健師と他の職種との組み合わせであった。

### 1) 乳幼児歯科健診と学校歯科健診との連携の現状

乳幼児歯科健診と学校歯科健診との連携に関する問いでは、「連携がとれていない」が 382 件 (60.7%) と最も多く、次いで、「実施機関間での (学校・教育委員会など) 連携がとれている」が 125 件 (19.9%) であった (図 1)。

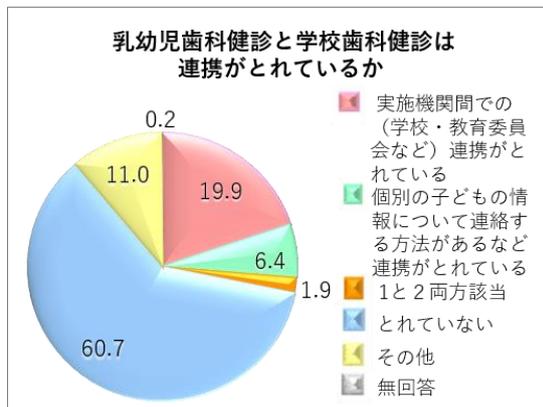


図 1 乳幼児歯科健診と学校歯科健診の連携

「乳幼児歯科健診と学校歯科健診との間に連携が必要だと思うか」の問いに関しては、「必要」が 423 件 (67.2%)、不要が 84 件 (13.4%)、その他が 120 件 (19.1%) であった。乳幼児歯科健診と学校歯科健診とのデータ連結や情報共有に関する問いでは、「行っていない」が最も多く 386 件 (61.4%) であった。「乳幼児歯科健診と学校歯科健診とのデータ連結や情報共有は必要だと思うか」の問いに関しては、「はい」が 423 件 (67.2%)、「いいえ」が 72 件 (11.4%)、その他が 132 件 (21%) であった。「乳幼児歯科健診と学校歯科健診との連携が進んでいない

と思うか」の問いに関しては、「はい」が 428 件 (68.0%)、「いいえ」が 104 件 (16.5%)、その他が 94 件 (14.9%) であった。

### 2) 乳幼児歯科健診と妊婦歯科健診との連携の現状

乳幼児歯科健診と妊婦歯科健診との連携に関する問いでは、「連携がとれていない」が 273 件 (43.4%) と最も多く、次いで「実施機関間での連携がとれている」が 139 件 (22.1%) であった (図 2)。

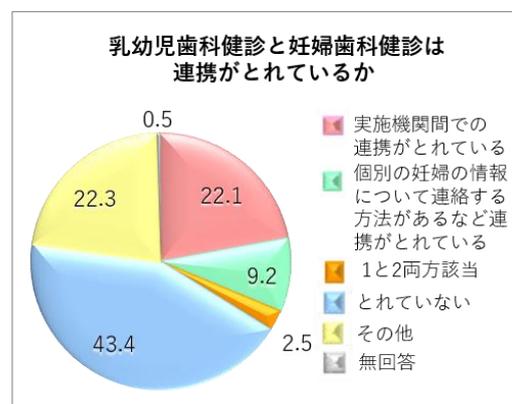


図 2 乳幼児歯科健診と妊婦歯科健診の連携

「乳幼児歯科健診と妊婦歯科健診との間に連携が必要だと思うか」の問いに関しては、「必要」が 386 件 (61.4%)、「不要」が 77 件 (12.2%)、「その他」が 155 件 (24.6%) であった。乳幼児歯科健診と妊婦歯科健診とのデータ連結や情報共有に関する問いでは、「行っていない」が 364 件 (57.9%) と最も多く、次いで、「集計データの情報共有を行っている」が 94 件 (14.9%) であった。「乳幼児歯科健診と妊婦歯科健診とのデータ連結や情報共有は必要だと思うか」の問いに関しては、「はい」が 368 件 (58.5%)、「いいえ」が 89 件 (14.1%)、「その他」が 161 件 (25.6%) であった。「乳幼児歯科健診と妊婦歯科健診との連携が進んでいないと思うか」の問いに関しては、「はい」が 318 件 (50.6%)、「いいえ」が 163 件 (25.9%)、「その

他」が137件(21.8%)であった。

### 3) 乳幼児歯科健診と職域歯科健診との連携の現状

「乳幼児歯科健診と職域歯科健診が連携している状況があるか」の問いに関しては、605件(96.2%)が「いいえ」と回答した。

## **D. 考察**

### 1) 乳幼児歯科健診と学校歯科健診との連携の課題

乳幼児歯科健診と学校歯科健診では実施機関の所管が異なることもあり、連携が必要と思っているものの進んでいない実情が示唆された。これまでに、乳幼児歯科健診従事者に学校歯科健診との連携に関する個別の実情を向うインタビュー調査を行ったが、「日々の業務が忙しく、今の業務に加え連携に関わる業務が加わることを天秤にかけて考えると、連携が必要だとは思えない」との意見もあった。本研究班が行った今回の調査に対して、連携が必要と答えた市町村の中には、市町村としての回答と乳幼児歯科健診従事者としての心情に乖離がある可能性も考えられた。乳幼児歯科健診と学校歯科健診とのデータ連結や情報共有に関しては、乳幼児歯科健診の対象歯である乳歯が、学童期に脱落・交換し、学校歯科健診での対象歯が永久歯へと移り変わることもあり、データ連結を困難にしていることが予想される。また、評価法に関しても乳幼児歯科健診では、厚生労働省分類によるう蝕罹患型に基づく指導要項があるが、学校歯科健診では、一歯ずつの評価になるため、両健診間に共有・連結可能な評価法が必要と思われる。

### 2) 乳幼児歯科健診と妊婦歯科健診との連携の課題

乳幼児歯科健診と妊婦歯科健診との連携は、実施機関の所管が同じで、市町村によっては同

じ担当部署が実施しているため、連携が取れていないとの回答が学校歯科健診と比較して少なかった。しかし、妊婦とその子が対象になるため、学校健診同様、両健診間に共有・連結可能な評価法がなく、データ連結・情報共有を困難にしている。

### 3) 乳幼児歯科健診と職域歯科健診との連携の課題

ほとんどの市町村が乳幼児歯科健診と職域歯科健診は連携していなかったが、職域歯科健診のデータから遡って乳幼児歯科健診のデータをみる事が可能な市町村もあった。乳幼児歯科健診と職域歯科健診との連携のためには、両歯科健診を繋ぐ学校歯科健診と乳幼児歯科健診との連携が先決と考えられる。

## **E. 結論**

生涯にわたり歯と口の健康を保持していくためには、小児期からの歯科疾患の発症予防が重要である。歯科疾患のリスク要因は生活習慣病などと共通するものが多く、適切なライフスタイルの確立や環境の整備が、口腔及び全身両方の健康増進にもつながる。本研究班で行った「歯科保健分野における他健診と乳幼児健診との連携に関する調査」から、データ連結には、整合性や情報共有に多くの課題があることが分かった。歯科保健分野では、歯科疾患と他の疾患等との共通リスクの低減を目的とした「コモンリスクファクターアプローチ」の必要性が高まっており、経年的な個人の歯科保健分野も含めた健康情報を一元管理するなど、情報連携の標準化が急がれる。

## **F. 研究発表**

### **1. 論文発表**

1. 青山 友紀、船山 ひろみ、荻原 佑介、湯沢 真弓、岡部 早苗、熊谷 千明、山口 桃

枝、金丸 直史、蜂須賀 良祐、小林 利彰、  
朝田 芳信。軟質樹脂を主構成素材に用いた「新子供用歯ブラシ」の清掃能に関する臨床研究。小児歯誌 57(3)：396-403, 2019.

## 2. 学会発表

1. 貨泉朋香、野原佳織、黒川亜紀子、小林利彰、日野亜由美、宮川友里、翁長美弥、大塚愛美、船山ひろみ、朝田芳信。小児の口腔機能に関するアンケート調査 口呼吸の早期発見に繋がる5つの徴候。第57回小児歯科学会全国大会、札幌コンベンションセンター、札幌、2019年6月10-11日。
2. Okochi A, Funayama H, Asada Y. Pediatric dentists' perspectives regarding children of concern (kininaru-kodomo: KK) in Japan: Findings from hybrid concept analysis. 18th International Congress of European Society for Children and Adolescent Psychiatry. Vienna, Austria. 30 June - 2nd July, 2019.
3. 船山ひろみ、金丸直史、朝田芳信。軟質ハンドル技術を活用した新子供用歯ブラシに関する研究-幼児の歯垢除去能力の特性-。第78回日本公衆衛生学会総会、高知文化プラザかるぽーと、高知、2019年10月23-25日。

4.

## G. 知的財産権の出願・登録状況

なし（予定を含む）